



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

ECCELL 社会人プログラム 変革期の乳幼児教育・ 保育を考える

平成28年度 後学期

〔開講科目〕

科目コード: 1600153

ECCELL 子ども学ゼミⅡ (集中講義) 1単位

日時: 10/29(土), 12/3(土), 12/24(土), 1/7(土)

いずれも 13:20-16:30

担当: 浜口順子(お茶の水女子大学 教授)

上垣内伸子(十文字学園女子大学 教授)

内海諸香(お茶の水女子大学)

安治陽子(お茶の水女子大学)

科目コード: 1600155

ECCELL 乳幼児教育論Ⅱ (集中講義) 1単位

日時: 1/28(土) 9:00-16:30, 1/29(日) 9:00-15:45

担当: 安治陽子(お茶の水女子大学)

■ 受講生は「お茶の水女子大学 科目等履修生」として登録され、授業回数の3分の2以上出席する他、一定の条件を満たした場合には、単位が認定されます。

■ **男性も受講可能**です。

■ 開講日時: シラバス(別紙)をご確認ください。

■ 納付金:

検定料 9,800円

入学料 28,200円(継続の場合、3年間有効)

授業料 14,400円(1単位につき)

※本学卒業生・修了生は、入学料が無料となります。

**詳しくは、お茶の水女子大学 ECCELL ホームページ
をご覧ください。**

⇒ <http://www.cf.ocha.ac.jp/nyuyoji>

応募期間

平成28年7月20日(水) ~ 7月26日(火) (※消印有効)

応募方法

出願要項・入学願書をお茶の水女子大学ホームページからダウンロードしてください(大学学務課窓口にも直接請求することもできます)。

出願に必要な書類を整えた後、下記〔願書送付先〕までご郵送ください。

⇒ **お茶の水女子大学ホームページ**: <http://www.ocha.ac.jp/>

〔願書送付先〕

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1 お茶の水女子大学 学務課 (電話: 03-5978-2722)

〔問い合わせ先〕

お茶の水女子大学 ECCELL 社会人プログラム (特別設置科目) 担当

電話: 03-5978-5949

E-mail: nyuyoji-info@cc.ocha.ac.jp

平成 28 年度 後学期 開講科目

■ ECCELL 子ども学ゼミⅡ (科目コード 1600153) 1 単位 集中講義

日時：10月29日(土)、12月3日(土)、12月24日(土)、1月7日(土)

いずれも 13:20-16:30

担当：浜口順子（お茶の水女子大学 教授）上垣内伸子（十文字学園女子大学 教授）
内海緒香（お茶の水女子大学） 安治陽子（お茶の水女子大学）

受講生自身の関心をもとに、乳幼児の保育や教育に関する問題や、保育現場などで直面するさまざまな課題について、各自研究テーマを設定し、ゼミ形式で話し合いながら研究レポートの作成をめざします。たとえば、子どもの発達や育ちと保育の関係、実践現場における子育て支援のあり方、観察記録やカンファレンスの活用、保育環境や表現の問題、海外の保育との比較や保育の歴史など、各自のテーマについて検討を行い、ディスカッションをするなどして、問題関心を深めていきます。人数が多い場合は、研究テーマによって少人数のグループに分かれるなど、柔軟に対応したいと思います。学期末に、学習・研究結果をまとめて発表します。希望者には日本保育学会などでの発表もサポートします。

■ ECCELL 乳幼児教育論Ⅱ (科目コード 1600155) 1 単位 集中講義

日時：1月28日(土) 9:00-16:30、1月29日(日) 9:00-15:45

担当：安治陽子（お茶の水女子大学）

子どもが育っていくうえで保育・乳幼児教育の果たす役割は、これまで考えられていたよりもずっと大きなものであることが明らかになってきています。そして今、日本の保育は制度変革の時期にあり、これからの時代の保育について、真摯な議論と実践の努力が続けられています。日々の保育の意味をとらえ直し、これからの時代の保育を志向して、さらなる質向上へとつなげていくことは、このような時代の要請でもあるのです。

保育の質は、保育の構造やプロセスなど様々な観点から捉えられますが、保育実践の見地に立つと、そこでの子どもの「遊び」がいかに充実しているかということは、保育の質を表す本質的な問いであるといえるでしょう。そこで本授業では、保育の質を捉えるために、保育の場における「遊び」とそこでの豊かな「学び」を取り上げて検討します。

また、すべての子どもにとって充実した「遊び」と「学び」が保障されるために、どのような保育のあり方の可能性があるのか、様々な困難や障害を抱えた子どもを含め、小学校への接続も見通しつつ、具体的な事例を通して考えます。

保育現場の見学とその振り返り、受講生自身の実践を共有するディスカッションなども取り入れる予定です。それらを通して、子どもが遊び、学び、生活して育ちゆく場の構築について、受講生とともに学び合い、深め合う授業としたいと考えています。